

授業科目名	経済学	担当教員	水野 和夫
必修の区分	必修		
単位数	1 単位		
授業の方法	講義		
開講年次	1・2年次第2クォーター		
講義内容	<p>授業は講義形式を中心に行う。世界と日本が抱える課題を経済の観点から解明していくことを授業の目標とする。従来「例外」だと考えていたことが、21世紀になって「常態」化しつつある。その代表例が日本やドイツのマイナス金利が長期化したり、米国のトランプ大統領が国際機関を通ずることなく、二国間協議を重視し各国と対立が深まったりしている。こうした事態の水面下で何が起きているのかを学生と一緒に考えていく。</p>		
到達目標	<p>学生は「例外」状態が起きている背景を考えることで、21世紀という時代の方向性を見定めることができる。過去の延長線で考えると、様々な現象が「想定外」の事態が起きると、慌てたり、いずれ元に戻ると考えたりする。学生は「例外」状況の原因を理解することで将来生ずるであろう困難な事態に遭遇しても適切に対処することができる。</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 近代とはいかなる時代か・・・「より遠く、より速く、より合理的に」 2 ゼロ金利はなぜ生じているのか・・・資本の充実と投資機会の消滅 3 ゼロ金利社会の課題・・・「利子生活者の安楽死」と「貨幣愛」の克服 4 利子とは・・・利子はどこから生まれるのか 5 資本とは・・・「神秘性」、「無限性」 6 グローバリゼーションとは・・・「過剰」の解消 7 21世紀はいかなる時代か・・・国民国家と帝国 8 21世紀はいかなる時代か・・・新中世主義 9 米中新冷戦の背景にあるもの・・・全世界の債権者はだれか 10 日本の課題・・・①巨額の国家債務 11 日本の課題・・・②エネルギー問題 12 日本の課題・・・③望ましい日本の姿 		
事前・事後学習	<p>復習を重視する。二日目および三日目の授業の時に前日の講義内容に関するレポートを提出して（2回レポート提出）、理解度を確認すること。</p>		
テキスト	<p>『次なる 100 年 歴史の危機から学ぶこと』2022 年、東洋経済新報社、著者水野和夫</p>		
参考文献	<p>『資本主義の終焉と歴史の危機』2014 年、集英社新書、水野和夫</p>		
成績評価の基準	<p>計 2 回のレポートの内容で評価。</p>		
履修上の注意 履修要件	<p>とくになし。</p>		
実践的教育	<p>該当しない。</p>		

備考欄	履修者が定員を超過した場合、抽選を行う。
-----	----------------------